



これまでは年に一回 12月に行ってききましたが、昨年度は生徒側からの要望もあり、5月の学園祭の時には生徒の手で進められた“Pick Up”という企画の中の一部としても行われました。また、12月と1月には2学年ごとに3回に分けてこれまでのような大会を開催したので、発表者数は以前の3倍ほどになりました。お膳立てされて発表するだけでなく、大会そのものの企画を生徒自らの手で行う方向性が出てきたのはとても喜ばしいことです。

内容は、紙芝居風、劇仕立て、クイズ、アニメからパワーポイントで颯爽と行うもの、更に英語での発表もあります。服飾の専門学校が行うようなファッションショーもありました。しかし、表面的に「面白い」とか「かっこいい」とかで終わってしまうものではありません。地味な発表でもその準備段階で資料集めや観察、実験などの大変な労力が払われています。これを深く学び取って考えぬいた末にまとめていきます。そして、聴衆に理解してもらおうという工夫を凝らし、その工夫や努力を通して発表者の理解がより深まっていきます。ここに至るまでには、それぞれ「総合的な学習」が要求されるのです。ひとつの言葉がきっかけとなって教員間で議論をしたり、数名の教員と生徒で発表内容の再吟味をしたりということもありました。これ自体が、表現する難しさのいい勉強になりました。

### 眞砂 和典 (まさご かずのり)

千里国際学園 中等部・高等部 校長

私自身は、本校の生徒とは対照的に、英語が苦手という理由で理系を志望した不謹慎な高校生でした。そのせいで今でも英語に苦しめられています。また、母校がこの数年でなくなってしまうという、教育界の荒波をまともにうけた者でもあります。出身の東京都立九段高校は千代田区立の中等教育学校に、また東京都立大学は移転、統合してしまいました。しかし、母校がないというもまた、すっきりした気分でもあります。学歴にしがみついで生きていくのはいやだし、貴重な学生時代は私の中に厳然として生き続けているからです。



また、それぞれの発表の前に指導教員からの短い紹介を頂いています。その授業の様子や発表までの苦労話が興味深く語られます。シャンミ ダッタ先生のこんな話もありました。「発表に分かりにくいところなどがあれば、どうぞ遠慮なく質問して下さい。生徒達はなんとか考えて答えます。答えられない質問に、どうやって答えるかということも勉強していきます。」というものです。そうか、そこまでやっているとは…。

実はこの企画には教員の研修の意味もあります。お互いの授業を共有して学び合うことができるからです。生徒にも教員にとってもこの大会が励みとなって、普段の教室で行われる発表がより充実したものになることも大きな目的と言えるでしょう。

発表の場であるシアターには生徒、保護者、職員が集まり、事務局の方まで来て下さるといふ、その多様な参加形態がとても本校らしいと思います。時には、この生徒にもこの場を経験させたいという思いで発表してもらうこともあります。暖かく、辛抱強く参加して下さいる皆さんには本当に感謝しています。

教育に大切なことのひとつはじっくり耳を傾けることだと思います。表現力は聴衆がいて初めて磨くことができるものだからです。

千里国際学園 中等部・高等部

〒652-0032 大阪府箕面市小野原西 4-4-16

電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055

HP:www.senri.ed.jp, E-mail:admissions@senri.ed.jp



「自己表現能力の向上」のために、日頃の授業の成果を多くの人に発表する、「プレゼンテーション大会」の紹介です。

ファッションショーから iPod の研究まで、発表テーマが広く多様なのが千里らしくて、興味深いですね。

前回に続く報告。眞砂先生、ご苦労様でした。

また、先生はこの4月から校長に就任とのこと、おめでとうございます。海外の子ども達のための学校作り、大変ですが、がんばってください。